

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2871000473		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	芦屋ケアセンターそよ風		
所在地	兵庫県芦屋市松浜町13-18		
自己評価作成日	令和5年2月27日	評価結果市町村受理日	令和5年6月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和5年3月8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

コロナ禍で近隣に公園や面会がうまくいかなかった時期がございましたが、オンライン面会の導入や玄関先のベンチなどで面会していただく工夫をいたしました。また、入居様のご家族様への連絡を今まで以上に行うことで、新しいスタイルの交流ができたと思っております。アンケート調査や、地域の方々とのソーシャルディスタンス守った交流の尽力いたしました。現在も地域となじみの関係性がございます。認知症の対応においては、継続して専門の資格・経験のある介護士が勤めているため、健康管理や自立支援にも気をつけ体操等に力を入れております。本人様のライフスタイルに合わせたサービスを提供できるよう心がけております。往診医の統一で医療連携もスムーズ可を行い受診や緊急時の対応は連携が取れております。また、皮膚科や精神内科、歯科も訪問診療の関係性ができており、ご家族への負担を軽減可能な体制をお勧めしております。介護に関する情報を全国から得ることは事業所の強みでもあり、災害時や緊急時には、他の施設からの協力を得ることができます。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

自然に恵まれた閑静な住宅地にあり、地域との馴染みの関係を保持し協力を得ている。玄関前の花壇に季節の花を植えてベンチを置き、2階のテラスにもベンチを置き、利用者が戸外で外気浴や気分転換できる環境を整備している。ユニット内に利用者と一緒に制作した季節の装飾を飾り、手作りの食事を提供し、家庭的な環境づくりを行っている。PDCAサイクルにもとづいたケアマネジメントを行い、利用者個々のライフスタイルや状態に応じた個別支援に取り組んでいる。楽しみながら機能低下予防ができるよう、いろいろな種類の体操やレクリエーションを工夫し、家事参加も支援している。協力医療機関・訪問看護との医療連携体制を整備し、希望に応じて看取り介護にも対応している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念「私たちは世界一番仲間を大切に作るチーム」と改め、一丸となって利用者様のよりよい実践する為、一人一人の幸せについて考えています。	職員の意見を集約し、事業所独自の理念・基本方針を作成した。理念「心を傾けて、行動する」という理念を1階事務所等、職員が目にする場所に掲示し共有を図っている。ユニット会議やサービス担当者会議で検討する時や研修の中で理念・基本方針に立ち戻り、理念・基本方針の実践に向け取り組んでいる。	理念・基本方針に地域密着型サービスの意義を取り入れることが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣自治会や民生委員、シルバー人材の方々等、コロナ禍の中でもご心配の訪問などがございました。事業所もお手紙や行事のおすそ分けなどをする等をしささやかですぐ交流しております。	コロナ禍のため通常の地域交流・地域貢献は行えていないが、可能な方法で地域とのつながりを継続できるよう取り組んでいる。玄関前のベンチも活用し、自治会長・民生委員・シルバー人材センターの方・近隣の方とのつながりを継続し、地域からの介護相談にも対応している。だんじりの練り回し見物、時期や時間帯を考慮した近隣への散歩等、利用者が地域と触れ合える機会づくりを行っている。福祉避難所として登録し、地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	緊急時の福祉避難所として、事業所を利用して頂きます。認知症ケアにかかわる地域の方々の交流の場に出ています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>コロナ禍のため面会制限が発令され開催ができずございました。文書での通達になっております。今後の開催についてはアンケートで要望もうかがいました。</p>	<p>利用者・家族代表、市職員、地域代表(民生委員・自治会長)、知見者(権利擁護センター相談員)・事業所職員を構成委員としている。コロナ禍のため令和2年度から、議事録を、家族・市・民生委員に郵送し、利用者状況・職員の状況・コロナ感染の状況と対策・事故ヒヤリハット事例・行事・研修等について報告している。令和4年9月に、全家族に運営推進会議についてのアンケートを実施し意見を聴いている。</p>	<p>・自治会長・知見者にも議事録を郵送することが望めます。 ・議事録に返信用紙等を同封し、構成委員からの意見や情報を次回の議事録で共有する等、書面会議でも意見・情報交換が行えるようにしてはどうか。 ・個人情報に配慮の上、議事録ファイルを玄関に設置する等、議事録を公開することが望めます</p>
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>グループホームの空き情報と利用者状況はご報告しています。高齢介護課よりこまめなメール配信いただき、不明確な点は伺うようにいたしました。</p>	<p>運営推進会議を通して、市との連携がある。公的支援を必要とする利用者について、市のケースワーカーと協働して支援している。コロナ関連や運営等について市から情報提供を受け、事業所からも必要な報告等を行い連携している。質問・相談があれば電話や訪問で市の担当窓口にお問い合わせ、回答や助言を適正な運営に反映している。休止していた市の介護相談員派遣事業がZoomで再開され、利用者が参加できるよう支援している。市のグループホーム連絡会や社会福祉協議会主催の認知症ケア交流会にも管理者が参加し、ネットワークづくりに努めている。</p>	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践                      代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束委員を設置しており、毎月各ユニットの状況を話し合って改善策はないかを確認しております。さらに職員には研修を月2回行い、振り返りを行っております。職員間での注意できる関係性は気づき、お客様ファーストに向け努めております。</p>	<p>「身体拘束等の適正化のための指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。管理者・ユニットリーダー・介護支援専門員を委員とし、毎月「身体拘束適正化・虐待防止検討委員会」を実施している。委員会では、身体拘束事例の確認と適正化に向けた検討を行っている。委員会の内容は、議事録の回覧(回覧印)により職員に周知を図っている。事業所内研修の年間計画に沿って、「高齢者虐待・身体拘束廃止」研修を年3回実施している。委員会は全体会議の中で行い、受講者は研修報告を提出し、参加できなかった職員は資料配布・研修報告書の提出により周知を図っている。ユニットのドア・玄関は暗証番号による操作が必要であるが、希望があれば玄関前・ベランダ・近隣の散歩に出かけ、閉塞感を感じないように対応している。</p>	
7	(6)	<p>○虐待の防止の徹底                      管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止委員を設置しており、定期的にセルフチェックシート活用し虐待の芽を摘むよう努めております。</p>	<p>「高齢者虐待防止」についても、「身体拘束適正化」と同様に、研修・委員会を通して職員の周知を図っている。研修の中で「虐待の芽セルフチェック」を配布し振り返りを促している。委員会では「良いケア・悪いケア」の事例について情報交換し、議事録の回覧で職員に周知している。気になる言葉かけや対応があれば、管理者・ユニットリーダーのラウンド時に注意喚起し、職員間でも注意し合えるよう促している。管理者は相談しやすい関係づくりに努め、また、法人としても、ストレスチェックを実施し、相談窓口を設置する等、職員のストレスや不安等が利用者へのケアに影響しないよう取り組んでいる。法人として「NG(ノー虐待)プロジェクト」の取り組みがあり、ポスターや動画を活用し、職員の意識向上に取り組んでいる。</p>	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施し、利用いただいているお客様の気持ちをお一人お一人大事にしております。また、後見人様等制度の利用されている方にも偏りのないサービスを提供できるよう心がけております。	成年後見制度を利用している利用者があり、後見人への利用者状況の報告・金銭管理書類の提供・面会時の対応等、事業所として制度利用を支援している。今後も制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、管理者が相談窓口となり、権利擁護センター等と連携して対応することとしている。	権利擁護に関する制度について、職員が一定の知識が得られるよう学ぶ機会を設けることが望まれます。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お困り事をより深く伺い、ニーズに合ったサービスのご提案をお伝えしております。また契約時に重要事項説明書等で、可能なこと不可能なことをきちんとお伝えし相互の確認を行っております。入居後はこまめに要望や、ご相談をうかがえる体制をとっております。質問は随時受け付けております。	入居相談があれば、まず困りごとを傾聴し、見学対応やパンフレットをもとにサービス内容・料金等を説明している。アルバムの写真で、生活の様子も伝えている。契約時には契約書・重要事項説明書・指針・同意書等に沿って説明し、文書で同意を得ている。特に、グループホームで出来ること出来ないことについては、詳細に説明している。医療連携、重度化・終末期対応についての質問が多く、具体的に説明し家族の不安の軽減に努めている。契約内容改定時には、変更内容を説明した文書を家族に郵送し、書面で同意を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の中でしたので、月に1度程度ご連絡をさせていただき、現状をご報告したり来客の際にはお写真を見せるなどを行い工夫をいたしました。ご要望などが、ないかはこちらからうかがうようにいたしました。	利用者の意見・要望は日々の会話の中で把握し、内容に応じて家族・後見人と相談し、「望みがかなえられる」(基本方針)よう努めている。家族には、来訪・面会(時期に応じてオンライン・玄関前のベンチ・居室)、電話連絡(月1回程度)、介護計画更新の際に近況を報告し、意見・要望の把握に努めている。面会が出来ない期間は、家族の来訪時にアルバムの写真を見ながら説明している。把握した意見・要望は申し送りノートやケアカルテに記録し、職員間で共有している。法人としても家族アンケートを実施し、家族の意見を事業所に伝えている。再開した市の介護相談員事業に参加し、オンラインで利用者が介護相談員に意見を言える機会作りを行っている。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所では全体会議・リーダー会議にて話を聞く体制を設け、可能な限り意見を反映させています。また、会社組織でも相談改善できる部署の掲示物を張っております。	全体会議・リーダー会議・ユニット会議を開催している。ユニット会議では、利用者一人ひとりについて意見・情報交換を行い、業務について検討し、職員の意見・提案を利用者のケア・業務・運営に反映できるよう取り組んでいる。日々の検討事項や共有事項については、職員の意見や提案を「ケアカルテ」や申し送りノートで共有している。定期的には年2回、また随時にも管理者が個人面談を行い、職員の意見を個別に聴く機会を設けている。法人としても、職員アンケートを行ったり、相談窓口を設置し、職員の意見の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課・契約更改制度を使って、面談等を行い、話を聞いて、目標設定や時には改善と指導に取り組んでいます。また、随時面談を行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	センター研修をはじめ本社案内の研修や、資格習得に向けての促しなどを行っております。また、職員の資格取得にも、補助供与をはじめとして会社・施設として後押ししています。また、現場ではトレーニング制度を設け新入職者の方にも安心していただけるよう体制をとっております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中でしたので多職種連携は少なかったように感じますが、ネットワークの定期的な情報共有はメールなどで行えました。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困り事は何かをうかがい、ご家族様と共に支えていくことを指針に努めております。今までの環境・背景・嗜好等あらゆる角度からサービス体制が行える視点をもって柔軟に対応できるよう努め、受容を大事にしております。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の悲しみや苦しみ、葛藤等を深く傾聴し、お気持ちやサービス提供の異存はないかを入念に確認しております。大切なご家族様への対応が想像できるよう、連絡を取るよう心がけております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントで知り得たニーズを第一とし、初期は短めの計画書を作成し、柔軟に対応の変更ができるよう作成しております。また、ご本人ご家族様に説明を丁寧におこなったうえ同意確認をしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の視界に入るよう目線をさげる、時には同じテーブルでお茶を飲むなどを行い、会話をする機会と時間に関係なく傾聴しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段より、家族様には日々の状態報告を行い、情報を共有しお互いに支え合えるよう取り組んでいます。事業所でカバーしきれないところは、家族様にもご協力を頂いています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限はございましたが、来客の機会を奪うことなく条件付きで面会いただきました。重ねて認知症のご理解と橋渡しにも努めました。	馴染みの人や場所についての情報があれば、「アセスメント表」・「ケアカルテ」・申し送りノートで共有している。コロナ禍のため通常の面会や外出が困難な状況であるが、電話・ラインでの写真や動画の配信・手紙・時期に応じて面会（オンライン・玄関前のベンチ・居室）等、家族との関係継続の支援を行っている。時期や時間帯を考慮しながら、馴染みの場所に散歩に出かける機会を設けている。春には、馴染みの場所での花見を予定している。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	周りの利用者同士で交流が持てるように、間に職員が入り、会話が進むように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも、お手紙をお出ししたり、お電話で近況を聞いたり、何か困ったことがあればご相談して頂く様に声を掛けています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いにより添えるように、普段より関わりを増やし、ニーズの把握に努めています。	入居前の聞き取りや情報をもとに利用者個々の思いや暮らし方の希望を把握し、「アセスメント表」の生活歴や一日の過ごし方・趣味・特技欄に記録している。入居後の会話や行動で把握した思いや意向は、ケアカルテの「生活」「周辺情報」「レクリエーション」に記録し、必要時には「申し送りノート」で共有している。「アセスメント表」の更新時には新しい情報を追記し、支援に反映できるよう取り組んでいる。把握が困難な場合は、コミュニケーション方法を工夫しながら利用者の反応・表情から汲み取ったり、家族からも情報を収集して把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時・家族来訪時に聞き取りを行い、少しでも多くの情報収集に努めています。普段の会話からも、ご本人の来歴を聞き取るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	こまめにモニタリングを行い、状態把握に努めています。毎日の御様子も、職員間で共有できるようにノートで連絡を取り合っています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、現状把握と共に情報共有し、介護計画を作成しています。また、多職種・家族にも聞き取りを行い作成しています。	「アセスメント表」をもとに、初回の「介護計画」を作成している。具体的な支援方法については、「介護援助計画表」を作成している。「モニタリング結果」を活用し、「介護計画」の内容の周知を図ると共に、サービス内容ごとの実施状況を毎日記録している。日々の支援や生活の様子は、システム内の「ケアカルテ」にタイトルを付けて記録している。初回は1カ月後に、それ以降は定期的には6カ月毎に「介護計画」の見直しを行っている。見直し時は、「モニタリング総括表」による評価と「アセスメント表」による再アセスメントを行っている。利用者・家族・管理者・主治医・訪問看護師・ユニットの全介護職員の意見を書面に集約し、サービス担当者会議を開催し現状に即した介護計画を作成している。「介護援助計画表」も「介護計画」と同じ時期に評価・見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段より気づきがあれば、職員同士でも情報の共有化を図っています。介護援助計画表を使用して、情報の共有と統一に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の付き添いや、入所時の荷物の搬入のお手伝い、書類作成のお手伝い等、可能な限りでサービスを提供しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて自粛要請がありお祭りや体操等地域のイベントなどにも参加できずでした。事業所前の清掃や近隣の住民の方とは挨拶は行いました。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>認知症であっても適切な医療を受けられるように協力医師の連携を取りました。</p>	<p>入居時にかかりつけ医を確認し、利用者・家族の意向に沿った受診を支援している。協力医療機関による内科(月2回)の訪問診療・訪問看護(週1回)、希望に応じて精神内科・皮膚科・歯科などの往診を受けられる体制がある。通院については、主に家族が同行し、必要時には職員が付き添い同行している。受診時には主治医の紹介状・ケアカルテの「バイタルチェック表」で情報提供している。往診・訪問診療結果は「訪問診療記録」に、訪問看護結果は「訪問看護記録」に記録し、通院はケアカルテの「支援経過」に入力し、職員間で情報を共有している。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護師が月4回とオンコール体制を取り随時連携をとれるようにしております。必要であればかかりつけ医にも連絡を行い、連携しています。</p>	/	/
32	(15)	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には必要であれば介護サマリーを提供し、情報を提供しています。また、退院時には地域連携室の方々と連携を取って、速やかに対応しています。</p>	<p>入院時には「介護サマリー」や「基本情報」で医療機関に情報提供を行っている。入院中は地域連携室・病棟ナース・家族と電話で情報交換して連携を図り、早期退院に向け支援している。把握した利用者の状態や情報はケアカルテの「支援経過」に入力し、職員間で情報共有している。退院前に「看護サマリー」で情報提供を受け、職員で回覧し周知している。カンファレンスで退院後の支援方法を検討し、介護計画の見直しを行っている。</p>	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段より身体状況を報告したり、事前に看取りについての話し合いを重ねています。重度化した際は改めて説明し、必要であればカンファレンスを行ない方針や対応について共有するよう努めています。	契約時に、「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」を利用者・家族に説明して同意を得ている。重度化を迎えた段階で、再度管理者から指針の説明を、主治医から病状の説明を行っている。看取り介護の希望があれば「急変時や終末期における医療時に関する意思確認書」で意向確認を行い、「看取り介護についての同意書」で同意を得ている。看取り介護に向けた内容で「介護計画」を作成し、主治医・訪問看護師・家族・事業所で連携し、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。事例があったユニットでは看取りに入る前に、「看取りについて」の研修を実施し、希望があれば家族にも資料を配布している。年間研修計画に「看取りケア」を入れ、年度内に研修実施を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については入職時より連携手順を伝えており、研修も行っています。また、事故発生時や事故になり得る状況であった時(ヒヤリ)、報告しカンファレンスを行ない、対応について話し合います。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や研修で改正部を周知しています。災害時の避難場所についても周知を図るとともに、普段より近隣の方にお声をかけ、災害時に協力が得やすいように、努めています。備蓄品を常備しています。	年間計画の中に避難訓練計画を入れ、年2回訓練を行っている。4年度は6月に日中想定洪水・津波・高潮想定防災訓練を、9月に夜間想定地震による火災訓練を、利用者参加で実施し、実施後に「訓練実施結果報告書」を作成している。参加できなかった職員には報告書を回覧し、避難方法・良かった点・問題点等の周知を図っている。緊急時の福祉避難所として登録し、普段から地域の民生委員・自治会長に声かけを行い、災害時に協力が得られるよう努めている。法人から支給された備蓄を倉庫に保管管理している。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の観点から、何気ない声掛けが相手にどの様に受け取られるかを考えるように指導しています。また、事業所内外の研修を通じて接遇についても理解を深めています。	「個人情報・プライバシー保護」「認知症ケア」「高齢者虐待・身体拘束廃止」等の研修の中で、人格尊重や誇り・プライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。「身体拘束・高齢者虐待防止委員会」で良いケア・悪いケアについて検討し、議事録回覧により周知を図っている。日々の声かけや対応の中で気になる場面があれば、管理者やリーダーが注意喚起し、職員同士でも互いに伝え合える関係づくりに努めている。写真・映像の使用については、入居時に文書で同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に決定して頂ける様な声掛けを行うようにしています。夜間やご不安な時も随時お話を伺います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごして頂けるように心を傾け、気持ちに寄り添って対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人で選んで頂ける方には選んで頂き、難しい方に関しては、本人に合った服装を意識しています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方に関しては調理をはじめ可能な限り行なって頂いています。感謝のお声かけも欠かしません。	法人の献立表をもとに、各ユニットで手作り調理した食事を提供している。利用者の好みや希望に応じて、献立をアレンジすることもある。旬の野菜や果物、行事食・イベント食も取り入れている。利用者個々の嚥下状態等に応じて、各ユニットで食事形態に対応している。利用者のADLや得意に応じて、野菜の下準備・食器洗い・味見等に参加し役割が感じられるよう支援している。おはぎ・炊飯器ケーキ等のお菓子作り、弁当のデリバリー・餅つき・焼肉パーティー等、食事やおやつの変化が楽しめる機会作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人にあった食事形態を考え、適宜変更しています。また、病状に合わせ医師の採血データより改善できる部分是对应しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっています。ご本人で行なって頂く場合でも、見守り後、職員が不十分な箇所をケアさせて頂いています。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの自己排泄が出来るように支援しています。また、排泄リズムの把握に努めています。	ケアカルテの「排泄記録」で利用者個々の排泄リズム・排泄状況を把握し、日中は可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。夜間は安眠を重視し、利用者個々の状況に応じて、ポータブルやベッド上での介助等、個別の支援に努めている。排泄用品の使用や介助方法等について検討事項があれば、随時リーダーが意見を集約して「申し送りノート」で共有したり、毎月のユニット会議で検討し、現状に適した支援につなげている。トイレのドアの開閉・周囲に配慮した誘導等、プライバシーへの配慮を周知している。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日に水分を1500CCを目標、水分量の把握に努めこまめに水分提供をしています。また食物繊維や乳製品の提供、適度な運動を行い、自己排泄をして頂けるように支援しています。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いくなく入浴に入ってくださいとお声がけを行っております。また、個別対応をすることで時間を有意義にとり、リラックスできるよう努めております。	週に2～3回の入浴を基本とし、ケアカルテの「入浴記録」に入浴状況を記録し把握している。一般浴槽の個浴で一人ずつ湯を入れ替え、生活習慣に応じて時間帯・長さに配慮しゆっくり入浴できるよう支援している。身体状況や体調に応じて、シャワー浴・足浴・清拭等に対応している。入浴剤の使用・しょうぶ湯・ゆず湯・歌を歌う・コミュニケーションを大切にする・香りの良い保湿クリームを使用する等、入浴をより楽しむことができるよう工夫している。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を考慮して、臥床して頂いたり、ソファでお休み頂いたり、食事時間をずらしたりと工夫して、休息して頂けるようにしています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関して、最後まで飲み終わったかの確認を怠らない様になっています。また、お薬情報をすぐに確認できるようにファイル保管し、効用などの把握に努め変更時は申し送りを行っております。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前からの情報と現在の会話を通じて本人の嗜好等を把握し、楽しみのきっかけを提供できるよう努めています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会の提供に努めておりましたが、コロナ禍の中でほとんどできず、事業所内で気分転換下肢筋力の低下予防に努めました。	コロナ禍のため通常の外出支援は行えていないが、時期や時間帯を考慮しながら、近隣の散歩には出かけられるよう取り組んでいる。事業所前のベンチでの外気浴・花壇の草取り・花の鑑賞、ベランダでのプランターの水やり・ベンチでの外気浴・洗濯物干し等、戸外に出る機会作りを努めている。秋には事業所前で地域のだんじり巡行を楽しむ機会も設けた。桜には花見ドライブを予定している。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理が可能な方は、高額にならない程度で、ご自身で管理される方もいますが、管理が難しい方に関しては、事業所で管理しています。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙の希望があれば、行なって頂いています。相手様にも出来るだけご協力頂くようお伝えしています。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を演出しています。利用者や家族様が作成した装飾や季節の花を花瓶に生けたり工夫しています。	共用空間にテーブル席・ソファ・畳スペースが設置され、家庭的で温かい雰囲気が感じられる。加湿器・空気清浄機・換気・消毒等により、衛生管理を行っている。時間帯で照明の色や明るさ・音量を調節し、快適に過ごせる空間づくりに配慮している。利用者と一緒に制作した桜の切り絵や作品・生花が飾られ、花壇には花が植えられ季節感が感じられる。ユニット内にキッチンや配膳台があり、調理作業・洗濯物たたみ・掃き掃除・草取り等、利用者の力量に合わせて家事参加できるよう支援し生活感を取り入れている。玄関ロビー・廊下・ユニット間の行き来を自由にし、玄関前のスペース・ベランダも共用空間として活用している。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方同士でお話しされる様に、食事の座席やリビングのソファの配置に配慮しています。職員も随時お声をかけます。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、家族様と相談のうえ、ご自身のなじみの物を持ち込んで頂くよう、お声をかけさせて頂いています。T	各居室は広く、クローゼット・カウンター・ベッド・エアコン等が設置されている。筆筒・椅子・テーブルテレビ・ラジオ・携帯電話等の使い慣れた家具や電化製品、ぬいぐるみ・人形・仏壇や趣味のもの等の馴染みのものが持ち込まれ、居心地よく過ごせる環境づくりを行っている。利用者が安らげる香りを用意する、制作活動ができるよう家具配置に配慮する等、利用者一人ひとりに寄り添った支援を行っている。居室担当者が衣替えや備品の整理整頓等、環境整備を行っている。居室前に名前・顔写真を掲示し、部屋間違いのないよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることと出来ない事の把握に努めて、自立できるところは継続して出来るように意識しています。		